

平成 28 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

「徳性・知能・体力」の校訓のもと、一人ひとりの持てる力を最大限に伸ばし、地域に貢献する人材を育て、地域に信頼される学校づくりをめざす。
そのために、

- ①「確かな学力」への取組みを通して、基礎的な力の定着と自ら学び考えることのできる応用力を養成する
- ②「豊かな心」を育む活動を通して、自尊感情を高め、他者を理解し共感できる力を涵養する
- ③「キャリア教育プログラム」の展開により、明確な将来設計を描き、目標に向かって努力し続ける態度を育成する

2 中期的目標

1 確かな学力の育成と進路実現の支援

(1) 授業力の向上

ア 授業に集中する環境づくりをすすめる。相互に授業力を高めるための校内授業見学週間を充実させる

※学校教育自己診断生徒項目の学習・授業に関する項目の肯定的評価平均を、72% (27年度) ⇒ 80% (30年度)

(2) カテゴリー制の充実

ア ステップアップコースのより充実に向けて「専門コース委員会」で検討し、検証する。また進路意識と連動したカテゴリー選択指導を充実させる

※大学進学希望者中、より自己の進路実現に向けて一般入試まで努力する生徒の割合41% (27年度) を維持

(3) キャリア教育の推進

ア 進路指導と人権教育をコラボレートした「総合的な学習の時間」を軸に、学年ごとの目標の具体化と検証を進め、3年間を見通したキャリア教育プログラムを展開する

※学校教育自己診断生徒項目、保護者項目の進路指導に関する項目の肯定的評価平均を、生徒、保護者約82% (27年度) ⇒ともに85% (30年度)

2 安全で安心な魅力ある学校づくりの推進

(1) 部活動、生徒会活動の活性化と、自主的に規律ある学校生活を送る意識を高める指導

ア 部活動への加入を一層促進し、部活動を通じた中高・地域連携をさらに推進する。またアダプトプログラムなど生徒会主催のボランティア活動を定例化し、充実させる

イ 遅刻を減らす取組み、着実な清掃活動の推進により、自分たちで規律ある生活を送り学校をよくし後輩に伝えていく意識を育てる

※1、2年生の部活動加入率57% (27年度9月) ⇒ 65% (30年度9月)。登校遅刻数2171 (27年度) ⇒ 2000以下 (30年度)。学校教育自己診断生徒項目の「生徒会活動は活発である」の肯定的評価を、59% (27年度) ⇒ 70% (30年度)

生活指導に関する項目の肯定的評価を、71% (27年度) ⇒ 75% (30年度)

(2) 「長尾高校適応サポート会議」の一層の充実

ア 「高校生活支援カード」の運用を定着させ、生徒の恒常的支援体制を整える

※学校教育自己診断生徒項目の教育相談、支援に関する項目の肯定的評価平均を、75% (27年度) ⇒ 80% (30年度)

3 学校の組織力向上をめざした取組み

(1) 学校運営改善に向けた方策の具現化

ア 生徒情報を中心とする学校情報の共有を充実させる

イ 学校運営改善に向けたアクションプランを具現化する

※学校教育自己診断教職員項目の診断「組織連携・運営改善」に関する項目の肯定的評価平均を、45% (27年度) ⇒ 65% (30年度)

(2) 経験年数の少ない教員のOJTの推進

ア 若手教育力育成の「さみどり塾」、研究授業の定例化や、「ベテランは一つ伝え、若手は一つ学ぶ」取組みをすすめ世代継承の活性化を図る

※学校教育自己診断教職員項目の診断「経験の少ない教職員育成の体制」に関する項目の肯定的評価を、57% (27年度) ⇒ 70% (30年度)

(3) 中高・高大・地域連携の推進と広報活動の強化

ア 高大連携は、大学からの学生派遣（学習支援）を補習等で活用する。中高・地域連携は部活動での交流、体育祭、文化祭への参加・交流を前進させる

イ 社会のICT化に見合ったホームページの更新と、ホームページ等を通じた学校の取組みについての発信を強化する

※学校教育自己診断生徒項目の「授業や部活動などでの校外連携」項目の平均を、56% (27年度) ⇒ 65% (30年度)

同保護者・生徒両項目の「学校のホームページをよく見る」の肯定的評価を、生徒20%、保護者24% (27年度) ⇒ともに50% (30年度)

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 28 年 11 月実施分]	学校協議会からの意見
◎肯定的回答率の全平均 【生徒】 26年度 68.9% ⇒ 27年度 70.8% ⇒ 本年度 70.6% 【教員】 66.4% ⇒ 54.8% ⇒ 60.6% 【保護者】 77.2% ⇒ 76.4% ⇒ 76.9% ◎項目をいくつかのカテゴリーにまとめた場合の傾向 ※データ：本年度 (27年度, 26年度) 【生徒】 ①学校全体についての意識：55% (59%, 60%) ②学習・授業に関して：73% (72%, 69%) ③生活指導に関して：73% (71%, 69%) ④進路指導に関して：82% (81%, 75%) ⑤教育相談、支援について：77% (75%, 71%) ⑥人権教育、学習について：67% (72%, 68%) ⑦学校行事、生徒会活動：68% (68%, 69%) ⑧施設・設備に関して：73% (73%, 72%) ※生徒のカテゴリー別の結果について、今年度は①「学校全体についての意識」、⑥「人権教育、学習について」の数値が減少しているが、全体的には大きな変動は見られない。	<第1回> 5月13日(金) ① 学校経営計画について ・ホームページのリニューアルは、非常によい。何を見せたいのかのメリハリをつける必要がある。また、どれだけ更新できるかが重要。 ・世の中が求めている「主体性」を重視。 ・企業では「ストレスチェック」が義務づけられている。子どものストレスへの対応に対しては、相談システムがある。 ・生徒の授業評価の活用を。 ・教職員の励みとなるよう数値目標の数字を活用すること

府立長尾高等学校

各項目別にみると、昨年度に比べ、25項目中14項目が上昇しており、特に「授業でわからないことについて、先生に質問しやすい」(68%→71%→75%)、「教え方について工夫をしている先生が多い」(65%→66%→70%)など、カテゴリー②「学習・授業に関して」では全項目が上昇している。

一方低下したのが「学校に行くのが楽しい」(82%→81%→75%)、「命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある」(74%→77%→72%)、「事件・地震や火災などが起こった場合の行動について知らされている」(81%→83%→78%)。また、60%を下回る回答は「視聴覚機器やコンピュータなどを使う機会がよくある」(56%→51%→51%)、「授業や部活動、行事で地域や他校と交流する機会がある」(54%→56%→51%)、「学校のHPをよく見る」(22%→24%→21%)の3項目である。

【保護者】

- | | |
|-----------------------------|-----------------------------|
| ①学校全体についての意識：78% (76%, 76%) | ②授業・評価に関して：68% (66%, 69%) |
| ③生活指導に関して：84% (81%, 82%) | ④進路指導に関して：84% (84%, 81%) |
| ⑤保護者連携、参加・相談：71% (70%, 70%) | ⑥人権教育、学習について：76% (86%, 87%) |
| ⑦学校行事、部活動：91% (87%, 89%) | ⑧施設・設備に関して：77% (77%, 80%) |
| ⑨学校からの情報提供関連：70% (70%, 69%) | ⑩学校教育への参画関連：77% (75%, 77%) |

※保護者について、今年度は生徒と同様に⑥「人権教育、学習について」が減少している。

今回、未回答率が1.5ポイント増加したものの、1クラス減となった今年度の回答者数は398名(H27:291名)、回収率は46%(H27:32%)と増加した。肯定率は25項目中16項目が上昇している。

項目別にみると、「子供は学校に友達がいると知っている」(94%→95%→96%)、「学校行事は、積極的に参加できるよう工夫されている」(92%→90%→94%)、「保護者に出す連絡や案内文書は適切である」(88%→88%→88%)、「この学校の部活動は活発である」(87%→83%→87%)、「地震・台風への対応が子どもや保護者に知らされている」(89%→88%→87%)、「先生は子どものまちがった行動を厳しく指導してくれる」(83%→84%→87%)は高い評価を得ている。

また、50%を下回る項目は一つで、「学校のホームページをよく見る」(31%→33%→25%)は、昨年度よりも8ポイント下がっている。その他、昨年度より5ポイント以上数値が下がったものは、「学校は子どもに関する個人情報を守られている」(94%→96%→60%)で、37ポイント減少した。

5ポイント以上上昇した項目は「教育方針をわかりやすく伝えている」(63%→60%→67%)、「子どもの心身の健康について、気軽に先生に相談できる」(73%→68%→77%)、「子どもに生命を大切にすることや社会ルールを守る態度を育てようとしている」(83%→82%→87%)、「PTA活動については活発である」(74%→72%→77%)、「家庭への連絡や意思疎通を積極的に行っている」(71%→72%→77%)である。

【教職員】

- | | |
|---------------------------|----------------------------|
| ①教育計画・学校全体：57% (49, 64%) | ②授業・評価に関して：65% (65, 66%) |
| ③生活指導に関して：63% (47, 63%) | ④進路指導に関して：65% (53, 68%) |
| ⑤相談・支援体制：55% (60, 60%) | ⑥人権教育、学習について：65% (56, 74%) |
| ⑦学校行事等特別活動：74% (67, 80%) | ⑧施設・設備に関して：46% (46, 63%) |
| ⑨地域・保護者連携：71% (68, 67%) | ⑩学校組織に関するもの：55% (48, 64%) |
| ⑪教育活動改善に関して：73% (59, 72%) | ⑫保護者への情報提供等：78% (68, 71%) |

※カテゴリー別の結果について、今年度は⑤「相談・支援体制」が減少しているほか、ほとんどの項目で上昇(伸び幅：3～14ポイント)している。

38項目中26項目が上昇、11項目が低下。全項目の平均は6ポイント上昇した(55%→61%)。

教育活動に関して、昨年度から特に上昇(10ポイント以上)した項目は「他の学校にない特色がある」(59%→31%→45%)、「系統的なキャリア教育を行っている」(60%→49%→63%)、「清掃がいきとどいている」(42%→37%→53%)、「学校行事の工夫・改善を行っている」(79%→66%→84%)、「生徒に社会規範や市民道徳を守る意識が育まれる機会をつくるよう配慮している」(64%→49%→74%)、「人権尊重に関する課題や指導方法について全教職員で話し合っている」(58%→34%→53%)である。

一方、大きく下がった(10ポイント以上)項目は「ICT機器を授業等で活用している」(52%→63%→53%)、「図書館が生徒に活用されている」(77%→69%→58%)である。

学校経営に関して、昨年度から特に上昇(10ポイント以上)したのは、「教育活動について、教職員で日常的に話し合っている」(70%→46%→66%)、「校長は学校運営等の考え方を明らかにしている」(61%→54%→87%)、「教職員が意欲的に取り組める環境にある」(48%→29%→61%)、「気軽に相談し合えるような職場の人間関係ができていく」(70%→54%→76%)である。

一方、大きく下がった(10ポイント以上)項目は「生徒の個人情報に関する管理システムが確立されている」(85%→69%→34%)である。加えて、「各分掌や各学年間の円滑・有機的な連携」は34%(56%→40%→34%)で、他の項目と比べても低い数値結果となっている。

◎課題

・【生徒】「学校に行くのが楽しい」の肯定率が減少していることから、その要因を明らかにする必要がある。そのためにも、今後より一層きめ細やかに生徒状況を把握することが重要である。

あわせて、カテゴリー⑤「教育相談、支援」について、23%の生徒が肯定的でないことから、生徒状況をもとに、学年・分掌・委員会間での連携強化等、教育相談体制の充実を図ることが課題である。

・授業改善は継続的な重要課題である。ICT機器や図書館の活用を図りつつ改善を図る必要がある。

また、【教員】の肯定度が高い「見学・参考できる機会がある」(87%→89%→92%)を生かすためにも、見学しやすい条件整備や見学後の検討が充実したものになるような工夫が必要である。

・「各分掌や各学年間の円滑・有機的な連携」について、今年度は新たな企画調整会議を定期的に行うなど、情報共有の徹底化に取り組んだ。各学年の生徒状況の把握、問題の対応に一定の効果は認められるものの、より円滑・有機的な連携が実現できるよう分掌等の組織体制の改善が重要課題である。

・「個人情報の管理」については、教職員の意識向上、指摘し合える関係づくりや管理ルールの徹底を図る必要がある。教職員の意識を高められるような自主研修や管理システムの改善を行う。

・校種間、地域連携の取組みについて、その目的や意義等を生徒・保護者に理解を図る必要がある。

・本校の特色を外部や保護者に理解してもらうためにも、学校ホームページや紹介ビデオ等の充実を図る必要がある。

が望ましい。

・社会へ出て行くうえでの必要な支援をして欲しい。保護者では、できないこともある。

② 広報活動について

・「家庭科部のコンテストでの表彰」や「保健委員会による携帯電話の電磁波について」等、保護者や地域にもっとアピールした方がよい。

③ 施設、設備について

・北河内一円で発生している自動販売機荒らしへの対策で、防犯カメラを設置したいが予算の問題がある。

・高校の場合通学区域が大きいので、大きな災害時の生徒に対する対応を決めておいて欲しい。保護者も対応や協力がしやすい。

・自転車置き場に屋根を設置して欲しい。

<第2回>10月21日(金)

「学校経営計画」の進捗状況をもとに

1 (1) 「授業力の向上」

・ベル着の定着はたいへん良い。今後も継続してほしい。

・授業中寝ている生徒がいることが残念。

・ICT機器活用は思いの外簡単にできる。是非挑戦して欲しい。

・生徒に気づかせる授業が大切。

・授業の「めあて」と「評価」は、授業の連続性もあり必ずしも毎時間しなければならぬものではないが、中学校でも重視している。

・発問には「揺るがない発問」「理解を深める発問」「揺らす発問」に分けられる。これらをうまく使い分けることが重要。

2 (1) ア 「部活動の発信力強化」

・生徒の頑張っている情報をもっとタイムリーに発信すべき。

2 (1) イ 「登校遅刻の更なる減」

・遅刻の3割減は大きな成果。これからも引き続き頑張ってください。

2 (2) ア 「ユニバーサルデザインにもとづく授業の推進」

・生徒が持つ様々な特性に対応できる支援的観点が必要。

2 (3) 「施設・設備の管理充実」・その他

・上段の雑草が生えたままの土地は何とかならないか。PTAとしても協力したい。

・地震対策について、机の下に潜るだけではなく、動かないように机の足をしっかりと持つことも大切。

3 (1) 「学校運営改善に向けた方策の具現化」

・組織的に取り組もうという姿勢がよく感じられる。

・学校図書館の予算について、国事業で活用できるものがあるはず。積極的に活用を。

3 (3) ウ 「ホームページの更新、発信強化」

・学校情報の発信は極めて重要。更なる充実を。

<第3回>2月17日(金)

(1) 学校経営計画及び学校評価について

(2) 学校教育自己診断について

・アクティブ・ラーニングを実施するには、組織の立ち上げが必要。教員は多忙なので、管理職が何かを削り、場と時間を確保する必要がある。

・指導要領の要点である「学びに向かう意欲」に関しては、長尾高校はここからというものを決めた方がいい。

・教員の努力により向上した点は、生徒にも伝わる。

・授業力向上に力を入れているのがわかる。生徒との信頼関係ができていく。

・遅刻減少には引き続き取り組んで欲しい。

(3) 各分掌、学年からの報告について

・個人情報の件は残念である。各自が鍵の掛かる場所の確保と、外から見てわかるルール作りを。

・新入部員対象の救急救命講習だけでなく、教員の講習も必要ではないか。教員の中にも講習ができる人が必要。

・人権やスマホ及びSNSの講習会は必要。毎年実施する方がよい。

・ステップアップコースの今後が楽しみである。

・教員の努力により、少しずつではあるが改善もされてきたとの報告を受けた。更なる改善と問題点の整理を望みます。

府立長尾高等学校

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 確かな学力の育成と進路実現の支援	<p>(1) 授業力の向上 ア 授業に集中する環境づくり イ 授業スタイルの進化の努力 イ 校内授業見学週間の充実</p> <p>(2) カテゴリー制の充実 ア ステップアップコースの検証 イ カテゴリー制の充実と検証 (3) キャリア教育の推進 ア 年間目標の具体化と検証 イ カリキュラムの充実・改善 ウ 生徒への支援の体系化</p>	<p>(1) 授業力の向上 ア 「ベル着」、机上整理等の授業規律の徹底。予復習や学習方法等、教科ごとに授業－学習スタイルの明確化 ・家庭学習の習慣化の対策を検討し生徒が自主的に取り組めるような仕掛けづくり ・視聴覚機器等を効果的に使用した授業の実践 イ 年2回の校内授業見学週間の活性化(実際に見学する教員を増やす)、併せて研究授業、授業に関する研修を連動して行う。初任者等の研究授業は年間通した取組みとする</p> <p>(2) カテゴリー制の充実 ア ステップアップコース(単独クラス2年目)の効果検証(進学実績等) イ カテゴリー制、選択科目の見直し(教科横断的な基礎学力の充実方策等、生徒実態に即した新たな戦略)に着手、理系進学対応の強化 (3) キャリア教育の推進 ア より効果的な進路意識醸成のため、生徒が身近な存在をモデルに将来を考えたり、作業を通して進路を考えたりできるような教材の蓄積 イ 進路実現に必要な力について議論を集約しカリキュラムに反映させる ウ 進学講習、資格取得に向けた講習や面接指導等、支援体制の体系化・組織化を図る</p>	<p>(1) ア 学校教育自己診断(以下、「診断」)【生徒】の学習・授業関係項目で肯定的評価(以下、「肯定」)の平均(72%⇒75%)、【生徒】「視聴覚機器を使う授業」(51%⇒60%) イ 診断【生徒】「他の先生が授業を見る」肯定(63%⇒70%)</p> <p>(2) ア 大学進学で一般入試まで(最後まで)努力する生徒(40%維持) イ 基本問題検討委－カリキュラム委で原案作成</p> <p>(3) ア 診断【生徒】【保護者】進路関係項目肯定(生:81%⇒85%、保:84%⇒85%以上) イ (2)イに同じ ウ (3)アに加え、診断【教職員】進路「きめ細かい指導」・「組織連携」関係項目肯定の平均(49%⇒60%)</p>	<p>(1) ア 「学習・指導関係」(72.3%→73.2%)、「視聴覚機器を使う授業」(50.7%→51.4%)と上昇は僅かだが、ベル着は定着しており、学習スタイルの明確化についても成果は認められる(「質問しやすい」(71%→75%)、「教え方に工夫」(66%→70%))。さらに生徒の意識付けも必要である。(○) イ 初任者の授業見学は各回5～10名程あるものの、今後は見学しやすくなるような工夫が必要である。(63%⇒65%) (△) (2) ア 担任団や教科・分掌の努力により、指導や講習の充実は認められる。(33%) (○) イ 原案は作成済み。今後教科・学年等の意見を踏まえ策定につなげる。(○) (3) ア 学年毎に希望する進学及び職業別に講師を招くなどして意識を高めている。3年間の進路目標・取組計画をまとめ可視化した。今後も意識醸成の取組の充実を図る。(△)(生:81%⇒82%、保:84%⇒84%) イ ※(2)イを参照 (○) ウ 講習・面接指導について、学年ごとの一覧表を作成し可視化を図った。教科・学年団・分掌の連携による相談支援・指導にも努力が認められる。(49%⇒61%) (◎)</p>
2 安全で安心な魅力ある学校づくりの推進	<p>(1) 部活動、生徒会活動の活性化、規律ある学校生活 ア 部活動、生徒会活動を活発に イ 遅刻指導、清掃活動推進</p> <p>(2) 「長尾高校適応サポート会議」の充実 ア 「高校生活支援カード」運用定着 イ 「いじめ防止基本方針」にもとづく年間計画の検証 (3) 施設・設備の管理充実</p>	<p>(1) ア 部活動加入促進のため、1年生の早くからの勧誘活動、部活動の発信力強化(ホームページ、生徒会だより等)。生徒会執行部が主催、活躍する行事を増やす イ 登校遅刻の更なる減。美化活動をはじめとする保健委員活動の充実</p> <p>(2) ア 「不登校生徒への支援モデル事業」の活用、支援カード」による情報集約、観察、ケース会議、カウンセリング、個別支援計画作成等運用サイクル定着と、運用のための研修実施 ・ユニバーサルデザインにもとづく授業の推進等具体的学習支援の方策を検討 イ 「いじめ防止委員会」の定期開催、いじめ防止に関する特に1年生HRでの教材開発と継承 (3) 日常的な点検・管理の充実を図る</p>	<p>(1) ア 部活動加入率(57%⇒60%) 1年は65%以上を目標。全部のHP更新。診断【生徒】「生徒会活動は活発」肯定(59%⇒65%) イ 登校遅刻の10%減。診断【教職員】清掃関係項目肯定(37%⇒60%)</p> <p>(2) ア 診断「相談・支援関係」項目肯定(【生徒】75%以上、【教職員】60%⇒70%)、【保護者】「気軽に先生に相談できる」肯定(68%⇒78%) イ 診断【生徒】「いじめなどへの対応」肯定(73%⇒75%)</p> <p>(3) 診断「施設・設備の点検・管理」項目肯定(【教職員】54%⇒60%)</p>	<p>(1) ア 加入率60%、1年68%と目標を達成(全学年9月末)。今後も加入促進に努める。(○)・10月中にHP更新完了。(○) ・自己診断では測れない、執行部生徒の地道な努力を評価したい。(59%⇒63%) (○) イ 遅刻件数23%減を達成(2171⇒1667)。(◎) ・保健委員に加え部員による活動は定着・充実した。(○)(37%⇒53%) (2) ア 国事業を活用し指導主事等を招いた研修を2回実施。新たにSCによるケース会議も実施した。(【生徒】77%【教職員】60%⇒55%)、【保護者】(68%⇒77%) (○) イ 新たなアンケート実施時に学校の姿勢を示すなど指導充実を図った。今後一層の啓発・支援充実を図る。(73%⇒75%) (○) (3) 広大な校地、老朽化の中で管理・改善は最大限達成している(54%⇒58%) (○)</p>
3 学校の組織力向上をめざした取組	<p>(1) 学校運営改善に向けた方策の具現化 ア 生徒情報を中心とする学校情報共有の充実 イ 学校運営改善に向けたアクションプランの具現化</p> <p>(2) 経験年数の少ない教員のOJT推進 ア 「さみどり塾」、研究授業の定例化 イ 世代継承の取組み (3) 中高・高大・地域連携の推進と広報活動の強化 ア 高大連携 イ 中高・地域連携 ウ ホームページの更新、発信強化</p>	<p>(1) ア・全教職員による「報・連・相」の充実 ・様々な学校情報について、学年、教科、分掌・委員会間での組織的共有を充実させる イ・学校運営改善に向けたアクションプランの具体化、組織的な推進に取り組む</p> <p>(2) ア・初任者中心に若手教員の年間通した授業力向上の取組み(研修、相互見学、示範授業等) ・世代継承の研修として「さみどり塾」の充実 イ 「ベテランは一つ伝え、若手は一つ学ぶ」を合い言葉に、各人が「学ぶこと、伝えること」いずれかの目標を出す(自己申告等)</p> <p>(3) ・地元校としての長尾ブランドを最大限活用し、生徒会、部活動、行事等あらゆる場面での地元、市内小中学校、地域との連携を推進する ・オープンキャンパスの効率化と充実化、新パンフレットの作成 ア 高大(関西外大)連携の推進(大学生の学習支援派遣充実、インターンシップ受入れ、留学生交流、教員研修依頼等)を図る イ PTA、同窓会等を学校支援組織として協力を依頼…長尾ブランドの側面強化を図る ウ リニューアルしたホームページのコンテンツ充実、定期的更新の定着。メールの活用</p>	<p>(1) ア・新たな情報共有の仕組みを5月中に機能させる イ・アクションプランの提案・推進5件以上 アイ・診断【教職員】「組織連携・運営改善」関係項目肯定の平均(45%⇒60%)</p> <p>(2) ア 診断【教員】「経験少ない教職員を学校全体で育成する体制」肯定評価(57%⇒65%) イ 自己申告で全員が目標化、達成状況で80%以上</p> <p>(3) アイ 連携関係の新規事業を少なくとも2つは行う ・診断【生徒】「授業、行事等を通して校外と交流機会ある」肯定(56%⇒60%) ウ 診断【生徒】【保護者】「学校のHPをよく見る」肯定(生:24%⇒40%、保:33%⇒40%)</p>	<p>(1) ア 首席・指導教諭・学年主任との3つの各企画会議を4月から実施。(○) イ 「成績関係の新マニュアル作成」「カリキュラム更新プロジェクト」「高大連携プロジェクト」等9プランを推進。実効化を図る。(◎) ・より円滑な連携、運営改善の実現に向け組織体制の改善を図る。(45%⇒61%) (○) (2) ア 初任者研修や2年目研修、「さみどり塾」が対象者と指導担当者間といった一部で行われているという認識がなされないよう、より多くの教職員が関わるような仕組みを創る。(57%⇒50%) (△) イ 面談等を活用し目標化はほぼ達成している。達成状況は80%となった。(○) (3) アイ 新たに大阪工業大学、御殿山渚商店会との連携活動を実施。その他2大学とも交渉を開始。今後実現を図る。(○) ・交流機会は増えている。今後は、その目的や意義等を生徒・保護者に理解を図るとともに交流の充実を図る。(56%⇒51%) (△) ウ 校長ブログは9月下旬から再開。部活動情報を中心に10月中に更新完了。今後も定期更新、内容の充実に加え、生徒や保護者へのHPの周知に努める。(生:24%⇒21%、保:33%⇒25%) (△)</p>